

学 校 名	北海道札幌南高等学校
-------	------------

学校関係者
学教評議員
5名

- 1 学校教育目標
- 1 高い識見と豊かな情操を養う。
- 2 健全な身体と堅忍不拔の精神を養う。
- 3 互いに人格を尊重し社会的資性を養う。
- 2 スクール・ミッション
- 次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる生徒の育成
- 「堅忍不拔」「自主自律」の精神を継承し、変化の激しい新時代において、たくましく、しなやかに生き抜き、リーダーとして社会に貢献できる人材を育成する。
- 3 年度の重点目標
- 新型コロナウイルス感染防止対策と学びの保障を両立させ、本校教育の質の維持・向上を図る。
- 4 自己評価結果
- 評価基準
- A:達成している B:おおむね達成 C:やや不十分である D:不十分である
- 5 学校関係者評価
- (1) 自己評価の適切さ
- A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である
- (2) 改善に向けた取組の適切さ
- A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない

領域	重点事項	評価の観点	達成状況	改善・充実の方策	(1) 自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 学習指導	❶「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業実践に向け、「教科研修」の充実を図る。	①授業力向上に係る各教科における組織的な研修、教材・指導方法の共有化を継続的に実施することができたか。	A	①オンライン授業など ICT を活用した研修を進めることができた。今後も、授業力向上・授業改善に向けた教科研修を促進していく。	A	A
	❷情報活用能力、問題発見・解決能力等の育成のため、ICTを効果的に活用した学習指導の研究を進める。	②各教科・科目、総合的な探究の時間において、ICTを効果的に活用した実践例を積み重ねることができたか。	B	②実践例を積み重ねることで、ICT に関する個々の教員のスキルが向上した。今後は授業での効果的な活用を一層促進する。		
	❸新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向け、観点別評価の研究を計画的に進める。	③「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づく観点別評価について、校内外の研修を通して理解を深めることができたか。	B	③校内研修及び他校との情報共有を不断に行い、計画通り令和4年度に向けての準備を整えた。今後は実践しながら課題解決を適宜図っていく。		
	学校関係者の意見		・コロナ禍における様々な制限の中、学びの保障に対して学校は生徒のために一生懸命取り組んでいる。 ・ICT 教育を積極的に推進していることは大変評価できるが、一方で新聞や読書から得る学びも大切にしてほしい。 ・教員全員に端末を配付することで、教員にも ICT の良さを感じてもらおうなど、学校全体で研修と実践に取り組んでいることが評価できる。			
Ⅱ 生徒指導	❶コロナ禍での生徒の自治的、創造的な活動を通して、社会の一員としての自覚を促し、自主的・自律的な態度の育成を図る。	①感染防止対策について生徒自ら考えさせ、生徒の自主性を最大限に生かした生徒会活動や部活動を推進することができたか。	A	①コロナ禍でも生徒自身で感染対策を徹底し、学校祭など自主自律の活動が展開された。部活動は生徒自らが日常的に健康観察を行い、感染対策に取り組んでいる。	A	A
	❷自他の生命を大切にするとともに、他者を尊重し、「いじめは絶対に許されない」という意識と態度を育成する。	②各種会議、いじめ防止委員会等での定期的な情報共有により、積極的に生徒の状況把握に努め、迅速かつ組織的な対応を図ることができたか。	A	②いじめに関する生徒間のトラブルに組織的に対応し、解決を図った。いじめの認知件数は1 件であったが、常に早期発見、早期対応を心がけていく。		
	❸情報モラルを身に付けさせる指導を適切に行い、情報社会に主体的に関わる態度を育成する。	③情報モラルに関するHR指導、講演会、各種資料を活用した啓発活動、教員・保護者対象の研修等を適切に実施できたか。	B	③コロナ禍で ICT 活用の場面が必然的に増えたが、使用制限を過度に設けることなく、基礎的な情報モラル・スキルを身に付けさせることができた。		
	学校関係者の意見		・学校祭や見学旅行を実施するなど、教科指導だけではなく学校行事を実施できたことは生徒の成長にとって大変良いことである。 ・いじめがあったことは残念であるが、生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるように学校全体で取り組んでほしい。			
Ⅲ 進路指導	❶新たな進路情報の収集・発信、進路に関わる体験活動、相談活動等を適切に進め、ガイダンスの機能の充実を図る。	① 進路セミナー・ガイダンス等の計画的な実施を通して、生徒・保護者・教員に対して有効な進路情報の発信・提供を行うことができたか。	A	①コロナ禍2年目となり、ICT の活用頻度が昨年度より高まり、計画した活動をすべて行うことができ、理解が一層深まった。	A	A
	❷自己の在り方生き方や社会情勢について深く考え、将来、社会の一員として貢献していくことを自覚し、主体的に進路を選択する能力を育成する。	②学問研究・自らの振り返りや六華ゼミ・出前講義など外部教育力を活用した取組を活発かつ効果的に実施できたか。	A	②六華ゼミなどを通して将来像などがさらにイメージでき、キャリア教育を効果的に進めることができた。次年度も外部の教育力を活用し、主体的なキャリア育成に努める。		
	❸進路シラバスに基づく系統的な進路指導を通して、自主的・協働的な学習態度を養うとともに、思考力・判断力・表現力を高め、進路実現に必要な能力を育成する。	③進路指導年間計画による進路学習等や「総合的な探究の時間」での探究的な学習プログラムに基づいた取組が効果的に実施できたか。	A	③年間計画に基づき、柔軟に対応し予定通り実施できた。総合的な探究の時間ではチームを組んで、主体性や協働性を磨くことができた。		
	学校関係者の意見		・六華ゼミを通して生徒のキャリア形成に役立っていることが本校関係者としては大変喜ばしいことである。 ・保護者アンケートより進路に関する項目において、学年による特徴があるので分析を進めてもらいたい。 ・今後も教育活動全体を通して、キャリア育成につながる活動を推進してほしい。			
Ⅳ 健康・安全指導	❶生徒の多様な実態や一人一人が抱える課題を把握し、迅速かつ組織的に対応できるよう教育相談体制の充実を図る。	① 心の悩みを抱えた生徒の状況や対応の仕方について、教員間で共有するとともに、保護者、SC、専門機関等との連携を円滑かつ効果的に進め、適切な援助ができたか。	B	①多様化する生徒の状況に、保護者、SC、SSW などの専門機関と連携し、生徒、保護者の心情に寄り添った対応ができています。今後も情報共有を綿密に行い、組織的・機動的な対応をしていく。	A	A
	❷自ら心身の健康保持増進及び感染予防を積極的に図り、健康で活力ある生活を送ることのできる資質・能力を育成する。	②生徒の心身の健康状態を的確に把握し、生徒一人一人の特性等に応じた支援を適切に行うことができたか。	B	②ICT を活用した健康観察を毎日実施した。保健相談部を中心に組織的に生徒の健康状態を共有し、適切な支援を行うことができています。		
	❸日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解させ、生涯を通じて安全な生活を送ることのできる資質・能力を育成する。	③交通安全、防犯及び防災に関わる取組を通して、日常の様々な危険について自ら判断し、自他の安全に配慮した安全な行動をとることができたか。	B	③年度計画どおりに交通安全指導、防犯・防災指導を行うことができた。今後は一人一人の生徒が意識を高め、自他の安全に努められるよう繰り返し指導する。		
	学校関係者の意見		・SC や SSW を効果的に活用し、学校生活に悩んでいる生徒のケアを今後も十分行ってほしい。 ・ICT を活用した健康観察は評価できる。 ・今後も生徒自身が感染対策を理解し実行できるように指導してほしい。			
＜働き方改革＞	❶ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進する。		B	出勤管理システムにおいて把握したデータをフィードバックし、個の気付きを促進した。	A	A
	❷計画された部活動休養日等を完全実施して、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮する。		B	良いパフォーマンスをするためには適切な休養が必要であるという意識が年々根付いてきている。今後も適切に休養を取り入れ、生徒の心身の健康に配慮した活動に努める。		
	学校関係者の意見		・教員の健康状態の把握を定期的に行うことで、職員全体の時間外勤務が減少していることは大変評価できる。 ・生徒とともに職員の心身の体調管理も同時に留意してほしい。 ・学校全体でペーパーレス化など業務改善を積極的に進め、職場環境を改善していることは大変評価できる。			